

龍谷大学世界仏教文化研究センター設立記念シンポジウム (外務省認定・日韓国交正常化 50 周年記念事業)

仏教を通じた日韓文化交流の歴史と展望 —未来への伝灯—

講演後、みなさまから大変多くの感想をいただきました。その一部を匿名で紹介させていただきます。

・基調講演においては、仏教伝来続く日韓の仏教交流が歴史的・文化的に触れられ、韓国仏教の全体像を掴むことができた。また今後の日本と韓国で、相互の研究者が共同研究していくことが重要であることがわかった。

・韓国の中での仏教の発展やどのような変化をして今の形になっていったのか等、詳しくまとめられていて、とても理解しやすかった。

・日本が高麗に大蔵経を要請していたことは知らなかったし、また將軍の誕生日に転読することで国の平和がもたらされるという考えも驚きであった。日本の護国思想は奈良時代の『金光明経』『仁王経』『法華経』のイメージがあったが、また一つ学ぶことができた。

・伊勢神宮において大蔵経が安置され、神道の中で利用されていたことは、見逃せない点だと思う。

・元暁と親鸞は、その生涯において戦乱の世に生きたことや僧侶でありながら結婚し子をもうけたこと等の共通点が見られたのが興味深かった。思想としては、仏智は「不思議」と説いていたが、疑惑心の克服は、かなり考えられているなぁと感銘を受けた。

・元暁と親鸞に多くの共通点があるということは全く知らなかった。時代を超えて比較されるほど、彼らの成し遂げた功績は大きなものなのだと改めて実感した。

・朝鮮半島から日本への渡来系の人々が、八世紀の人口 800 万人の内 200 万人ほどもいたことに驚いた。

・渡来系の人々が渡ってきて、仏教を伝えたのは知っていたが、日本人々は仏教の教えのみならず、寺院の建て方などの文化も積極的に取り入れていったことがわかった。

・奥村円心は、韓国の政治にまで関与し、寺院も建立し、大きな貢献を果たしたことがよくわかった。

・奥村兄妹の活動を見ていると、布教はただ教えを伝えていくというだけではなく、事業などにもつながっていて意外でした。ただこのような布教は、一步間違えると、他国への侵略にもとられてしまうのではと感じた。

・最近の韓国では、過酷な受験戦争と厳しい学歴社会によって苦しみ、自殺者も出ているようである。私は、学問をすることによって、一隅を照らすことができるように、また自らの愚かさに気付いていけるように、社会を作っていくべきだと思う。

・韓国の児童・生徒の人権条例による韓国の教育現場の問題は、現在の日本の教育現場の問題と共通するものがある。そのため、子どもを守るという本当の理由を深く考えていかなければならない。

・京畿道の児童・生徒に対する人権保障は、日本に比べ手厚いと感じた。また教師への人権教育にも力を入れており、日本でも取り組むべきだと思う。だが、人権という言葉は盾にして、反抗的な態度をとる生徒もいる。そのような生徒をどう指導するかが今後の課題だと思う。

・日韓間の平和を実現するために、仏教の「許し」が大いに参考になるということについて、良いお話を聴けたと思います。ありがとうございました。

・「懺悔なき許し」という言葉が一番印象に残った。懺悔すれば許されるということが当たり前のように思われるが、懺悔をしなければ許さないと考えると、確かにこれは暴力的であると思った。そこからまた戦争につながることもあるかもしれない。

・今の日本は、ある意味「謝罪疲れ」から、反韓の流れとなり、また韓国も反日となっている。日本人なら触れたくない問題に金先生はもう一度、仏教の基本的教義で解決の方向を示された。

・平和を希求するためにも、平和思想に立脚する仏教徒が働きかけを行うことは、意義があると思いました。

・国が違えば文化も違う。そういった中で、仏教は、様々な問題を解決しうる。仏教の持つ可能性というものを感じた。

・今回のシンポジウムで、古来、日本と韓国が相互に影響を与えあい高めあっていたのだと気づいた。よくよく考えてみると、日本へ伝来した文化は知っていたが、日本から韓国へ渡った文化・人物などはあまり知らなかったので勉強になった。

・見たことのない写真や、聞いたことのない話の連続で、貴重な時間だった。

・特に室町・江戸時代に仏教を介して日本と多くの関係があったにもかかわらず、また仏教は、インド、中国、東南アジア諸国あるいは西アジアにいたる広がりを見せる中で、埋没した感のある韓国の仏教を、日本は、隣国として深く考える必要があると思いました。

・仏教はもとより、宗教に接する人間の姿勢を伝えていただいた。

・日韓の1500年に及ぶ仏教交流を考えると、最近の日韓関係の悪化はなぜか？と疑問を持ちます。今後、宗教や人の交流で東アジアの平和を作っていければと思いました。

・「境を越える」というテーマは、現在、特に刺激的である。いろいろな問題意識を掻き立てられると思います。今後、このテーマを軸に展開した企画を望みます。

この他にも、多くのご意見・ご感想をいただきました。

宗浩(朴文基)先生、馬場久幸先生、藤能成先生、赤羽奈津子先生、姜文善(慧源 Hye-Won)先生、出羽孝行先生、金浩星先生、ご講演、誠にありがとうございました。